

# 世界経済への日本の包摂

オスカー・シュヴァルツァー／マルクス・A・デンツェル 著

山田 徹雄 訳

## 一、『世界の通貨』研究プロジェクト

『世界の通貨』研究プロジェクト<sup>1)</sup>は、既に十年來手形決済關係を研究対象にしてきた。西ヨーロッパの手形決済網の最初の基本的枠組みは、既に中世に地中海を中心とする経済にみることが出来る。ヨーロッパの拡大の結果、ハンザ同盟地域と地中海経済が次第に統合にむかった。工業化によって既存の構造が強化され、十八世紀以降、ヨーロッパ以外の地域が西ヨーロッパを中心とする世界経済に組み込まれた。十九世紀末に新たな成長の極として北アメリカが、二十世紀初頭にはそれに続いて東アジア、とりわけ日本が発展を開始した。『世界の通貨』研究プロジェクトは、経済の国際的ネットワークの有効な指標としての為替相場の発展によって示されるような、世界の各地域のそれぞれの意義を網羅的に考慮した経済史に、一定の貢献をすることになろう。

『世界の通貨』シリーズの出版物は、それぞれが十七世紀以来にみられた国際的な為替相場のネットワーク化の様相を描く広範

な研究計画の各部分を構成している。全巻が個々の通貨と金融市場に対する、大冊の序章である。

## 二、為替相場一覧の製作

一卷ごとに十七世紀から二十世紀に至る歴史地理領域における重要な金融市場の為替相場（及び一部、正金相場）が収められている。金融市場は通例、相互に相場の値付けをすることによって一定の時期に、一つ大陸（即ちヨーロッパ）のその時々の手形決済網に同じ込まれ（eingebunden）て行く。このことはとくに十九世紀の非ヨーロッパの金融市場にあてはまるのであるが、片務的な値付けによって（とりわけロンドンに基いて）ヨーロッパの体系に結びつけられるのである。

## 三、東アジアの金融市場

一八五〇—一八六〇年以前には、広東が中国と東アジアの金融の中心であった<sup>3)</sup>。それと並んで上海が中国においては副次的な役割を



演じていた<sup>(4)</sup>。フィリピンにおいては比較的重要な金融の中心地はマニラであり、インドネシアのオランダの領有地においてはパタビア（及びスラバヤ）であり、インドシナのイギリス植民地ではシンガポールであった。日本は当時、鎖国をしていたために、東アジアの世界経済地域には、まだ組み入れられていなかった。

明治時代が始まり、経済財政改革が行なわれた後に、香港、上海と並んで横浜が東アジアのもうひとつの金融の中心地として登場した。神戸（兵庫）／大阪がとりわけ金融市場としてもうひとつの重要な商業の中心地となった。これ以上に突出して一層の変化がみられたのはインドシナだけであった。（即ちタイの中心としてのバンコック、ビルマの中心としてのラングーンであった。）東アジアの金融の中心地は、一九〇〇年頃には、いずれも西ヨーロッパの主要な外為の中心地（ロンドン、パリ、ベルリン／ハンブルク）、合衆国（ニューヨーク、サンフランシスコ）、インドの各地及びオーストラリア（一九一〇年頃から）に依拠して相互に為替相場を決定していた。

東アジアは十九世紀の広い範囲にわたって外国貿易における共通の基軸通貨、即ちメキシコドルを有していた。この地域のあらゆる貨幣がメキシコドルと緊密な関係を持っていた。日本は（一八七一年以降）円をメキシコドルを基軸とする方向に傾き、同様に中国も外国貿易においてメキシコドルで広く精算していた。香港は為替相場をメキシコドル及び、イギリスを範とする通貨、香港ドルで決定していた。海峡植民地（シンガポール）においては、ようやく銀価格の下落及び金本位制の導入によって通貨統一が始まった<sup>(5)(8)</sup>。

#### 四、日本の為替相場と通貨（一八六一—一九一四）

日本の為替相場が、もっとも早い時期に外国の金融市場に当時公表されたものは、一八六一年以降の上海市場における横浜の相場表であった。しかし既に一八五四年には日本で為替手形を外国人が利用し流通していた形跡がある、とフリードリヒ・アウグスト・リュードルフは伝えている。

「サー・ジェイムズ・スターリンの率るイギリス遠征隊の」乗組員及び将官のために日本人から購入した食料品はおよそ六〇〇シリングの金額に達し、それに対して、将官が「ロンドンの」海軍本部で振り出した為替手形で、オランダ人を通じて支払われた。」

ヨーロッパや（一八五四年十月十五日のイギリスとの神奈川条約）北アメリカとの（一八五三／五四年以降）商業活動の拡大にともなう、一八六〇年以降、日本の港湾都市の英字新聞には、かなり定期的にロンドンや中国大陸の都市（上海、香港）における為替相場が掲載され、一八六九年以降サンフランシスコの為替相場が、また一八七三年以降にはニューヨークの為替相場が掲載されるようになった。このことから『世界の通貨』プロジェクトは、（一八六一年以降の）横浜発の相場表が、また一八六三年に外国で入手できるようになった兵庫／神戸発の相場表（一八六八／六九、一八七九、一八九七—一九〇〇、一九〇五—一九一四年）が利用できる。

以下の資料が相場一覧表の作成に用いられた。横浜については

The Nagasaki Shipping List and Advertiser (1861 /

# YOKOHAMA WECHSELT AUF SHANGHAI, ZEHN TAGE - PRIVATWECHSEL

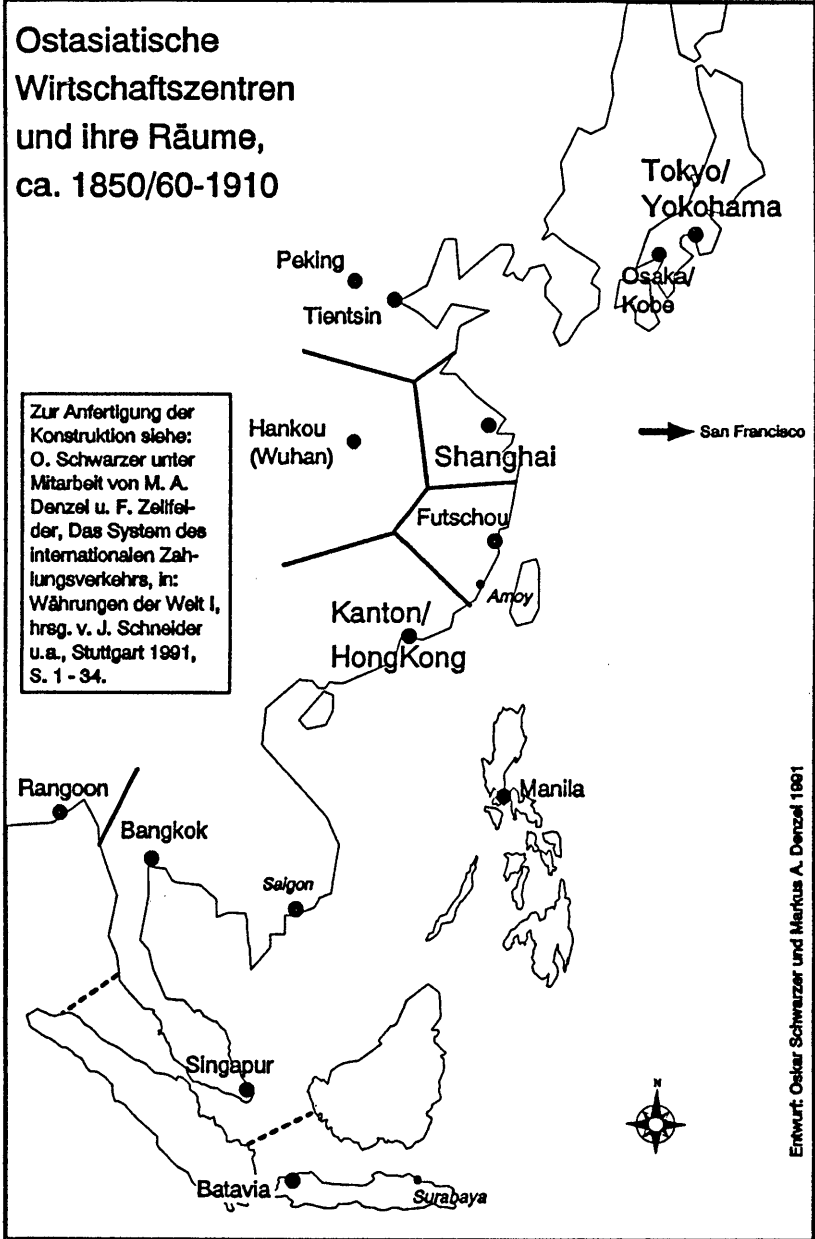
*Mexikanische Dollars für 100 mexikanische Dollars / ab 1863 (9) für 100 Shanghai-Rechnungs-Tails (Liang)*

	Jan.	Feb.	März	April	Mai	Juni	Juli	Aug.	Sep.	Okt.	Nov.	Daz.	JM.
1861							100,00	101,53	105,27	105,82	101,66	101,53	101,42
1862	104,17	104,17	102,04		104,17	104,17		104,72	105,27	105,82	105,27	102,57	104,08
1863	101,53							126,39	125,59	125,59	125,59	125,00	---
1864	131,37	131,58	129,04	130,30	130,51	132,02	136,06	135,60	131,15	131,15	137,46	140,85	133,59
1865	139,38	137,46	135,60	136,06	136,06	134,46	133,34	133,78	135,83	138,89	138,89	136,52	136,37
1866	133,78	136,06	134,91	136,52	135,14	136,52				134,68	134,23	134,68	135,17
1867	136,52	136,99	137,23	135,60	135,60	135,14	133,34	136,06	132,45	132,02		133,34	135,81
1868	136,29	135,14	135,14	135,60	133,78	134,23	134,01	128,21	132,45	132,02		133,34	133,66
1869	133,56	131,15	131,15		130,72	132,24		131,80	131,80	131,80		132,02	131,83
1870	131,58	132,02	132,45	134,68		132,45						132,02	132,64
1871	133,78	134,23	134,23										134,08
...													
1873	134,01	131,58	132,45	131,58	133,34	133,34	132,45	133,78	135,14	136,06	134,68	133,78	133,37
1874	134,23	135,14	136,06	136,99	137,46	136,06	135,60	135,60	136,52	136,52	136,99	136,52	136,14
1875	136,06	136,06	136,99	136,99	137,46	137,46	137,46	136,99	137,46	137,46	137,46	137,46	137,11
1876	137,46	136,52	136,06	136,06	131,58	132,45	129,87	131,58	129,87	128,21	130,72	133,34	132,81
1877	133,34	133,34	134,23	133,78	132,45	131,58	131,58	134,23	134,68	136,06	136,06	136,52	133,99
1878	138,89	136,99	136,06	136,06	136,52	136,06	136,06	136,06	137,46	137,93	137,93	137,46	136,53
1879	137,46				136,52	135,14	136,99	137,46	137,46	137,70	136,99	137,46	137,29
1880	138,41	135,14	136,52	136,52	136,06	137,46	137,93	138,89	138,41	137,70	136,99	137,46	137,29
1881	137,93	136,99	136,99	135,60	135,83	136,52	136,99	136,99	136,06	135,60	135,60	135,14	136,35
1882	135,60	135,60	135,60	136,06	135,14	135,14	136,06	135,60	136,06	136,06	136,06	136,76	135,81
1883	136,76	136,99	136,99	136,06	136,06	136,52	136,06	136,52	136,06	136,76	135,60	136,06	136,49
1884	137,46	137,70	137,46	136,99	136,99	136,99	136,52	137,46	136,52	136,06	135,14	135,14	136,70

Börsenplatz	Kursnotiz			Zeitraum	
	Ort	Usance	Träger		
Yokohama	Shanghai	10 Tage	Privatwechsel	1861-1914	
	HongKong	10 Tage	Bankwechsel	1862-1871	
	London	6 Monate	Bankwechsel	1862-1914	
	HongKong	10 Tage	Privatwechsel	1863-1914	
	London	6 Monate	Privatwechsel	1864-1914	
	London	4 Monate	Privatwechsel	1867-1908	
	Paris	6 Monate	Bank-/Privatwechsel	1868-1914	
	Paris	4 Monate	Bank-/Privatwechsel	1868-1914	
	San Francisco	30 Tage	Privatwechsel	1869-1914	
	London	Sicht		1870-1910	
	Shanghai	Sicht	Bankwechsel	1870-1914	
	Paris	Sicht	Bankwechsel	1873-1914	
	New York	30 Tage	Privatwechsel	1873-1914	
	New York	Demand	Bankwechsel	1873-1914	
	San Francisco	Demand	Bankwechsel	1873-1914	
	HongKong	Sicht	Bankwechsel	1873-1914	
	Indische Bankplätze	Demand	Bankwechsel	1893-1914	
	London	telegr. Transfer	Bankwechsel	1894-1914	
	Lyon	4 Monate	Privatwechsel	1894-1914	
	Deutsche Bankplätze	4 Monate		1894-1914	
	Deutsche Bankplätze	Sicht		1894-1914	
	Indische Bankplätze	30 Tage	Privatwechsel	1894-1914	
	Lyon	Sicht		1907-1914	
	Austral. Bankplätze	30 Tage		1910-1914	
	Kobe	London	4 Monate	Waren-/Agenturwechsel	1897-1900
		HongKong	Demand		1897-1900
		Shanghai	Demand		1897-1900
		Indische Bankplätze	10 Tage	Privatwechsel	1897-1900
		London	Demand	Bankwechsel	1897-1914
		London	telegr. Transfer	Bankwechsel	1897-1914
Paris		4 Monate	Privatwechsel	1897-1914	
Paris		Demand	Bankwechsel	1897-1914	
Hamburg		4 Monate	Privatwechsel	1897-1914	
Hamburg		Demand	Bankwechsel	1897-1914	
Vereinigte Staaten		4 Monate		1897-1914	
Vereinigte Staaten		Demand	Bankwechsel	1897-1914	
HongKong		10 Tage	Privatwechsel	1897-1914	
Shanghai		10 Tage	Privatwechsel	1897-1914	
Indische Bankplätze		Demand	Bankwechsel	1897-1914	
Austral. Bankplätze		30 Tage	Privatwechsel	1897-1914	
London		4 Monate	Bankwechsel	1905-1914	
London		4 Monate	Privatwechsel	1905-1914	
London		30 Tage	Bankwechsel	1905-1914	
London		30 Tage	Privatwechsel	1905-1914	
London		Demand	Privatwechsel	1905-1914	
London		telegr. Transfer	Privatwechsel	1905-1914	
Paris		telegr. Transfer	Bankwechsel	1905-1914	
Hamburg		telegr. Transfer	Bankwechsel	1905-1914	
Vereinigte Staaten		telegr. Transfer	Bankwechsel	1905-1914	
HongKong		telegr. Transfer	Bankwechsel	1905-1914	
Shanghai		telegr. Transfer	Bankwechsel	1905-1914	
Indische Bankplätze		30 Tage	Privatwechsel	1905-1914	
Indische Bankplätze		telegr. Transfer	Bankwechsel	1905-1914	

# Ostasiatische Wirtschaftszentren und ihre Räume, ca. 1850/60-1910

Zur Anfertigung der  
Konstruktion siehe:  
O. Schwarzer unter  
Mitarbeit von M. A.  
Denzel u. F. Zellfelder,  
Das System des  
internationalen Zahl-  
ungsverkehrs, in:  
Währungen der Welt I,  
hrsg. v. J. Schneider  
u.a., Stuttgart 1991,  
S. 1 - 34.



Entwurf: Oskar Schwarzer und Markus A. Denzel 1991

62), The Japan Herald (1861 - 1865), The Japan Times (1865 / 66), The Daily Japan Herald (1866 / 67), The Japan Times' Overland Mail (1868 / 69), The Japan Weekly Mail (1870 - 1914) 及び補完資料として

China Overland Trade Report, HongKong (1861 und 1863) und China Mail, HongKong (1864)

兵庫ノ神戸ニ付いて

The Hiogo and Osaka Herald (1868 / 69), The Hiogo News (1869), The Kobe Advertiser and Shipping Register (1879), The Kobe Weekly Chronicle (1897-1900) und The Japan Weekly Chronicle, Kobe (1905 - 1914; Kurse von: Teverson & MacLavish, Bill Brokers, Kobe)<sup>11)</sup>.

為替相場は一メキシコドル或いは百メキシコドルに対する外貨で示されている。この相場表示方法は、一八七一年に日本で金本位制が導入された後にも維持された。(一円=一〇〇銭、一・五グラムの純金に対して一円) 同時に、メキシコドルにならい、一円銀貨(二四・二六一グラムの純銀に対して、一八七七/七八年に至るまでは開港された港に限って)が導入され、この一円銀貨は一円金貨と(ほぼ)同価値でありメキシコドルよりもやや弱含みであり、一八六六年以降短期間香港のイギリス政府によって鑄造された銀貨(香港ドル)とまったく同価値とされた。金が過大評価されていたことから(一七三八年には金対銀は一对十八)、既に一八七二年には一円銀貨の発行が中止された。このことに

よってメキシコドルに対する一円金貨の価値が下がり始めたのである。

更に一八七六年に合衆国においてさえアメリカ貿易ドルが法定貨幣としての資格が取り消され、それが東アジアに大量に流出したとき<sup>16)</sup>、日本政府は一八七七年以降再び一円銀貨を鑄造し、メキシコドルや貿易ドルと同量の銀含有量であった。(一八七八年六月以降、日本の法定貨幣となった)。この一円銀貨は貨幣の統一にむかうものと目された。一八七九年には、刻印においても貨幣の統一という点でも一八七一年の旧い一円銀貨に戻された<sup>18)</sup>。

一八七三年横浜港発の領事報告によると、日本の銀貨はほとんど流通していなかった(その時々々の銀の価値に従って購入されただけであった)ので、商業においてはほとんど意味を有していなかった。通常、商取引は政府紙幣の形態か、或いは、とくに外国との間ではメキシコドルで行なわれた。従って事実上一八八六年一月一日まで日本においては紙幣本位が支配し、その後名目上、銀本位となった。(松方蔵相の改革)<sup>20)</sup>

Kurs des Gold-Yen in Hiogo-Osaka 1872/73<sup>15)</sup>

Mexikanische Dollars für 100 Gold-Yen:

1872, Juli:	104,00	1872, Dez.:	93,50
1872, Aug.:	102,63	1873, Jan.:	93,25
1872, Sept.:	99,38	1873, Juni:	96,63
1872, Okt.:	99,00	1873, Dez.:	97,25
1872, Nov.:	95,75		

商取引にかかわる手形業務は、横浜においては個々の商人（個人為替）によって、或いは横浜に代理店を置く外国銀行によって行なわれたが、それと並んで、日本銀行の開業（一八八二年十月）にもかわらず手形業務を行う最も重要な金融機関である「横浜正金銀行」によって行なわれた。様々な外貨の交換レートは、一八八〇年十月一日付の日本の税関局長の公示に基いて以下のように決定されていた。

一ポンドスターリング	六・六二〇（銀平価）円
一フランスフラン	〇・二六三
一帝国マルク	〇・三二四
一アメリカドル（金）	一・三六一

世界の銀相場が一層低落した後、一八九七年十月一日、日本では貨幣制度の改革によって金本位制が導入された。その基礎となったのは、日清戦争後、一八九五年下関の講和において協定をみ、ロンドンの口座にポンドスターリングの形で預け入れられた中国からの賠償金であった。（金為替本位）円の金平価は1/2に切下げられ、金と銀の交換比率は、一対三二・三四八に定められた。海外市場における為替相場は、金本位制によって今やすべて金平価円によって現わされるようになり安定を示し「新制度採用のもっとも重要な影響のひとつは（日本の）金融市場が、ヨーロッパ諸市場と一層密接な関係を有するに至ったことである。」ヨーロッパ市場では、横浜においてロンドン、パリ、並びにリヨン、ドイツのいくつかの市場での相場が示されていた。北米では、一八九二年に至るまでニューヨークとサンフランシスコの相場が別個に示されていたが、一八九三年以降、単一の相場で示されて

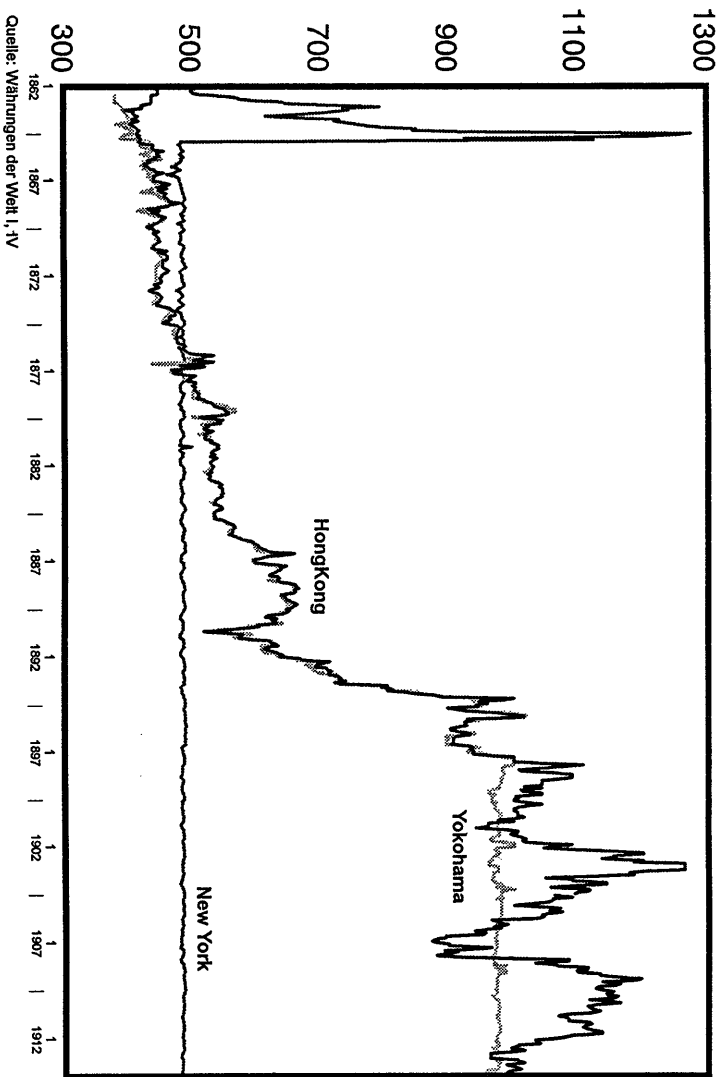
いる。東アジアの領域においては、香港及び、とりわけそれに隣接する上海が記載されていた。これと並んでインドの金融市場及び一九一〇年頃にはオーストラリアも載せられた。これに対して東南アジア市場との関連はまったくみられなかった。

非ヨーロッパ市場のヨーロッパの手形決済制度への統合の画面と並んで通信の緊密化の開始も、外為相場の値付けにおいて明らかになる。確かに一九世紀初頭においては、例えばニューヨーク、広東、香港はロンドン（の相場）に基いて値付けが行なわれていたが、一部はかなり広い価格帯で、不規則かつ激しく変動していた。ようやく一八七〇年以降——電報の導入以来——アメリカの為替相場は狭いレンジで値が決まるようになった。（電報用の）海底ケーブルの結果、安定した為替相場は経済関係の緊密化のあらわれである。以前には不確実性（情報伝達期間が長いこと）故に、思いとどまっていた事業上の決定が今や実現されるに至ったからである。

香港と横浜で並行して展開された一連の外為相場一覧をみると、東アジアではメキシコドルが基軸通貨としての意味をもち、また、銀価格が金に対して低下したことがわかる。相場が安定したのは、まず第一に金本位制の導入、即ち日本における金平価円の導入に伴って実現したのであった。かくして今日三極を代表する北米と東アジアの工業地域（ニューヨークと横浜に代表される）は、安定した外為にみられるように、既に世界経済の主導的な地位へと包摂されたのである。



# Außereuropäische Wechselkurse 1862-1913 Hongkong, Yokohama und New York auf London



Quelle: Währungen der Welt I, IV

- 1 Statistik der Geld- und Wechselkurse in Deutschland (1815 - 1913), hrsg. v. J. SCHNEIDER und O. SCHWARZER (QFHS XI), St. Katharinen 1990; Statistik der Geld- und Wechselkurse in Deutschland und im Ostseeraum (18. und 19. Jahrhundert), hrsg. v. J. SCHNEIDER, O. SCHWARZER und P. SCHNELZER (QFHS XII), St. Katharinen 1992; Währungen der Welt I: Europäische und nordamerikanische Devisenkurse 1777 - 1914, hrsg. v. J. SCHNEIDER, O. SCHWARZER und F. ZELFELDER (BWSG 44), Stuttgart 1991; Währungen der Welt II: Europäische und nordamerikanische Devisenkurse 1914 - 1990, hrsg. v. J. SCHNEIDER, O. SCHWARZER, F. ZELFELDER und M. DENZEL (BWSG 45), Stuttgart 1993; Währungen der Welt III: Geld und Währung im 17. Jahrhundert, hrsg. v. dens. (BWSG 46), Stuttgart 1993; Währungen der Welt IV: Asiatische und australische Devisenkurse im 19. Jahrhundert, hrsg. v. dens. (BWSG 47), Stuttgart 1992; Währungen der Welt V: Asiatische und australische Devisenkurse im 20. Jahrhundert, hrsg. v. dens. (BWSG 48) (in Vorbereitung); Währungen der Welt VI: Geld und Währungen in Europa im 18. Jahrhundert, hrsg. v. dens. (BWSG 49), Stuttgart 1992; Währungen der Welt VII: Lateinamerikanische und afrikanische Devisenkurse im 19. und 20. Jahrhundert, hrsg. v. dens. (BWSG 50) (in Vorbereitung).
- 2 O. SCHWARZER / M. A. DENZEL, Wirtschaftsräume und die Entstehung von Grenzen. Versuch eines historisch-systematischen Ansatzes, in: SOWI 3, 1991, S. 172 - 178; H. J. BERMAN, Recht und Revolution. Die Bildung der westlichen Rechtstradition, Frankfurt/Main 1991; O. SCHWARZER unter Mitarbeit von M. A. DENZEL und F. ZELFELDER, Das System des internationalen Zahlungsverkehrs, in: Währungen der Welt I, S. 1 - 34, hier: S. 6 - 13.
- 3 Vgl. F. PERLIN, Financial Institutions and Business Practices Across the Euro-Asian Interface: Comparative and Structural Considerations, 1500 - 1900, in: The European Discovery of the World and Its Economic Effects on Pre-Industrial Society, 1500 - 1800 (Papers of the Tenth International Economic History Congress), hrsg. v. H. POHL, Stuttgart 1990, S. 257 - 303.
- 4 Weitere *Wirtschaftszentren* in China waren Tientsin und Peking, Hankou (Wuhan) und Futschou.
- 5 C. G. F. SIMKIN, The Traditional Trade of Asia, London 1968.
- 6 Ebd., S. 368/69: "Westerners swarmed into the fishing village of Yokohama, near Kanagawa, and quickly developed it as the chief port for foreign trade".
- 7 F. NOBACK, Münz-, Maass- und Gewichtsbuch. Das Geld-, Maass- und Gewichtswesen, die Wechsel und Geldkurse, das Wechselrecht und die Usanzen, Leipzig 1877, S. 387.
- 8 Singapur und Siam (Thailand) banden in der Folge die Währung an Sterling. Mit dem Philippine-Coinage-Act von 1903 wurde der erste Baustein für den späteren US-Dollarraum in Ostasien geschaffen. Vgl. SCHWARZER unter Mitarbeit von DENZEL und ZELFELDER, Internationaler Zahlungsverkehr, S. 24; A. P. ANDREW, The End of the Mexican Dollar, in: *Quarterly Journal of Economics* 18, 3/1904, S. 321 - 353.

- 9 F. A. LÜHDORF, Acht Monate in Japan nach Abschluß des Vertrages von Kanagawa, eingeleitet und neu hrsg. v. J. SCHNEIDER, Wiesbaden 1987, S. 51 - 52. - Für das Geldwesen in der Zeit des Tokugawa Shogunats siehe The Recent Economic Development of Japan, hrsg. v. The Bank of Japan, Tokyo 1915, S. 267 - 269 und K. TASHIRO, Exports of Gold and Silver during the Early Tokugawa Era. 1600 - 1750, in: Money, Coins, and Commerce: Essays in the Monetary History of Asia and Europe (From Antiquity to Modern Times), hrsg. v. E. H. G. v. CAUWENBERGHE, Leuven 1991, S. 75 - 93; P. W. KLEIN, Dutch Monetary Policy in the East Indies. 1602 - 1942: A Case of Changing Continuity, in: ebd., S. 419 - 453, hier: S. 425 - 427. Vgl. auch H. AKIMOTO, Capital Formation and Economic Growth in Mid-19th Century Japan, in: *Explorations in Economic History* 18, 1981, S. 40 - 59; O. MÜNSTERBERG, Japans auswärtiger Handel von 1542 bis 1854, Stuttgart 1896, vor allem S. 200ff.
- 10 Ebd., S. 368.
- 11 Für die Erhebung der Quellen in Japan danken wir Herrn Prof. Dr. Yanagisawa und Herrn Dr. Michael Rauck.  
Hinweise zur weiteren Vervollständigung der Datenreihen erbitten wir an folgende Adresse: Prof. Dr. Jürgen Schneider, Otto-Friedrich-Universität Bamberg, Lehrstuhl für Wirtschafts- und Sozialgeschichte, Am Kranen 12, D-8600 Bamberg.
- 12 Der Begriff "Yen" bedeutet wörtlich "Kreis" oder "Rundstück"; der Yen war die erste runde Münze aus Edelmetall in der japanischen Geschichte. Vgl. K. HAX, Japan - Wirtschaftsmacht des Fernen Ostens. Ein Beitrag zur Analyse des wirtschaftlichen Wachstums, Köln - Opladen 1961, S. 55 mit Anm. 25.
- 13 Nach der Münzproklamation von 1871 sollte gelten: 101 Gold-Yen = 100 Silber-Yen = 100 mexikanische Dollars; SIMKIN, Traditional Trade, S. 361; NOBACK, Münz-, Maass- und Gewichtsbuch, S. 388. 1872 wurden alle lokalen Ausmünzungen und Papiergeldausgaben durch die Regierung übernommen.
- 14 Die Münzapparate von HongKong wurden von der japanischen Regierung gekauft und nach Osaka (Landesmünzstätte seit 1871) gebracht, wo der frühere Dirigent der ehemaligen Münzstätte in HongKong die Ausmünzungen leitete. Siehe ebd., S. 387/88 und 390. Vgl. auch ANDREW, Mexican Dollar, in: *Quarterly Journal of Economics* 18, S. 345.
- 15 NOBACK, Münz-, Maass- und Gewichtsbuch, S. 388.
- 16 M. A. DENZEL, Der Aufstieg und die Einbindung der Vereinigten Staaten von Amerika in die Weltwirtschaft: Transatlantische Wechselkurse von 1783 bis 1914, in: Währungen der Welt I, Bd. I, S. 146 - 179, hier: S. 154.
- 17 Nach Recent Economic Development of Japan, S. 271 bereits ab Februar 1875.
- 18 J. C. Nelkenbrecher's Taschenbuch für Kaufleute. Erste Abtheilung: Münz-, Maass- und Gewichtskunde, Wechsel-, Geld- und Fondscurse u.s.w., neubearb. v. E. JERUSALEM, Berlin 1890, S. 484. Die Rückkehr zum Silber-Yen von 1871 geschah nach Recent Economic Development of Japan, S. 271 bereits im November 1879.  
"Before the appearance of the Bombay dollar in the middle nineties the Japanese silver coins were probably the most familiar of all coins in the Straits Settlements and the Malay archipelago, and were freely current also in most of the ports of China, Korea, Indo-China, and Siam. ... So, while the Japanese yen gradually ousted the Mexican dollars from the Japanese trade centres, at the same time they had invaded much of the territory which hitherto had been the exclusive domain of the Mexican coins"; ANDREW, Mexican Dollar, in: *Quarterly Journal of Economics* 18, S. 346.

- 19 NOBACK, Münz-, Maass- und Gewichtsbuch, S. 388. Vgl. auch Recent Economic Development of Japan, S. 271 - 273.
- 20 J. C. Nelkenbrecher's Taschenbuch für Kaufleute, S. 484. Am 1.1.1886 wurde das Papiergeld gegen Silber konvertibel (Deflationspolitik unter Beschränkung der Papiergeldmenge); V. HENTSCHEL, Wirtschaftsgeschichte des modernen Japans 1. Die japanische Industrialisierung. Voraussetzung, Grundlagen, Durchsetzung (1600 - 1929), Stuttgart 1986, S. 56 - 58; H. POHL, Aufbruch der Weltwirtschaft. Geschichte der Weltwirtschaft von der Mitte des 19. Jahrhunderts bis zum Ersten Weltkrieg, Stuttgart 1989, S. 259; R. W. GOLDSMITH, The Financial Development of India, Japan, and the United States. A Trilateral Institutional, Statistical, and Analytic Comparison, New Haven - London 1983, S. 37.
- 21 Die *Bank von Japan* erhielt im May 1884 das Recht der Notenausgabe. Zum Bankwesen allgemein siehe K. YAMAMURA, Japan 1868 - 1930: A Revised View, in: Banking and Economic Development. Some Lessons of History, hrsg. v. R. CAMERON, New York - London - Toronto 1972, S. 168 - 198; HAX, Japan, S. 406f.
- 22 Die *Yokohama Specie Bank*, gegründet 1879, hatte auch in Europa zahlreiche Filialen, unter anderem auch in Lyon wegen des Handels mit Seide; daher wird in Yokohama ab 1894 neben Paris Lyon notiert. Vgl. N. TAMAKI, The Yokohama Specie Bank: A Multinational in the Japanese Interest 1879 - 1931, in: Banks as Multinationals, hrsg. v. G. JONES, London 1990, S. 191 - 216; HAX, Japan, S. 407f.
- 23 J. C. Nelkenbrecher's Taschenbuch für Kaufleute, S. 485; SIMKIN, The Traditional Trade, S. 364.
- 24 Ebd., S. 486. Vgl. auch J. Inouye, Problems of the Japanese Exchange 1914 - 1926, London 1931, S. 241 - 244. - Eine ausführliche Paritätentabelle für alle japanischen Wechselkurse siehe in 'Währungen der Welt IV'.
- 25 HAX, Japan, S. 56; HENTSCHEL, Wirtschaftsgeschichte 1, S. 152; POHL, Weltwirtschaft, S. 259.
- 26 Recent Economic Development of Japan, S. 276.
- 27 Die *Yokohama Specie Bank*, gegründet 1879, hatte auch in Europa zahlreiche Filialen, unter anderem auch in Lyon wegen des Handels mit Seide; daher wird in Yokohama ab 1894 neben Paris Lyon notiert. Vgl. N. TAMAKI, The Yokohama Specie Bank: A Multinational in the Japanese Interest 1879 - 1931, in: Banks as Multinationals, hrsg. v. G. JONES, London 1990, S. 191 - 216; HAX, Japan, S. 407f.
- 28 Vgl. Währungen der Welt I, Bd. 1; Währungen der Welt IV.
- 29 Weitgehend paralleler Kursverlauf zwischen Kanton und HongKong ab 1849.
- 30 O. SCHWARZER, Goldwährungssysteme und internationaler Zahlungsverkehr 1870 - 1914, in: E. Schremmer (Hg.), Geld und Währung in der Neuzeit vom 16. Jahrhundert bis zur Gegenwart, Stuttgart 1992.

## 解説

本稿は『世界の通貨』(Währung der Welt) に関する  
壮大な研究プロジェクトの一環として書かれたオスカー・  
シュヴァルツァー (Oskar Schwarzer) 及びマルクス・  
A・デンツェル (Markus A. Denzel) の論文 (Die Einbeziehung Japans in die Weltwirtschaft) の翻訳である。

一昨年、都立大学教授柳沢治氏より、当該論文の翻訳を原著者が求めていることをお聞きし、喜んでお引き受けすることにした。というのも、原著者の指導教授であり、このプロジェクトの代表者であるユルゲン・シュナイダー教授

(Prof. Dr. Dr. Jürgen Schneider——バムベルク大学) には、私がエアランゲン・ニュールンベルク大学に留学中、一方ならぬ御指導をいただいているからである。

一九七五—七七年にD A A Dの留学生としてケレンベント教授のもとで私が研究していた折、シュナイダー氏は同教授の助手を勤め、ケレンベント・ゼミの実質的「指導教授」であった。また私が帰国する年に、原著者の一人シュヴァルツァー氏が同大学に入学しているのも、私の義務感に強く訴えたのである。

本年八月に、バムベルク大学にて、シュナイダー教授、シュヴァルツァー博士と最終的な打ち合わせを行い、翻訳を発表することとなった。シュナイダー教授については、我が国の学界において周知と思われるが、原著者一名については、ほとんど紹介が行なわれていないので、ここに略歴を紹介させていただきます。

### Kurzlebenslauf Dr. Markus A. Denzel

Dr. Markus A. Denzel, geb. 1967 in Nürnberg, 1986 - 1991 Studium der Geschichte und der Historischen Theologie an der Universität Bamberg als Stipendiat der Bayerischen Begabtenförderung, 1987 - 1992 Mitarbeit in verschiedenen DFG-Projekten zur internationalen Geld- und Währungsgeschichte am Lehrstuhl für Wirtschafts- und Sozialgeschichte der Universität Bamberg, 1992/93 Stipendiat der Bischöflichen Studienförderung Cusanuswerk, 1994 Promotion zum Dr. phil., seit 1994 Wissenschaftlicher Assistent am Institut für Wirtschafts- und Sozialgeschichte an der Universität Göttingen.

**Forschungsschwerpunkte:** Internationale Geld- und Währungsgeschichte sowie Entwicklung des Zahlungsverkehrs vom Mittelalter bis zum 19. Jahrhundert; Gewerbe und Marktstrukturen im 18. Jahrhundert

**Wichtigste Veröffentlichungen:** Kurialer Zahlungsverkehr im 13./14. Jahrhundert, Stuttgart 1991; "La Practica della Cambiatura". Europäischer Zahlungsverkehr vom 14. bis zum 17. Jahrhundert, Stuttgart 1994. Herausgeber der Bde. IX und X und Mitherausgeber der Bde. II - VIII der Reihe "Währungen der Welt".

## **Kurzlebenslauf Dr. Oskar Schwarzer**

Dr. Oskar Schwarzer, geb. 1955 in Memmingen, 1977-1982 Studium der Wirtschaftspädagogik mit Schwerpunkt Wirtschafts- und Sozialgeschichte an der Universität Erlangen-Nürnberg, 1983-1987 wissenschaftlicher Mitarbeiter im DFG-Schwerpunktprogramm „Quellen und Forschungen zur Historischen Statistik Deutschlands“ mit dem Arbeitsthema ‘Historische Geld- und Wechselkurse’, seit 1987 wissenschaftlicher Assistent am Lehrstuhl für Wirtschafts- und Sozialgeschichte der Universität Bamberg, 1989 Promotion zum Dr. rer.pol.

**Forschungsschwerpunkte:** Internationale Geld- und Währungs-geschichte und Geschichte der Weltwirtschaft (18. -20. Jh.); Deutsche Wirtschaftsgeschichte (18. -20. Jh.); Wirtschaftsgeschichte der DDR.

**Wichtigste Veröffentlichungen:** Die räumliche Ordnung der Wirtschaft in Deutschland um 1910. Ein historisch-systematischer Ansatz zu einer Theorie wirtschaftlicher Entwicklung und strukturellen Wandels, Stuttgart 1990; Mitherausgeber der Bde. I-VIII der Reihe ‘Währungen der Welt’ und Herausgeber des Bd. XI, Stuttgart 1991 ff.; Mitherausgeber der Bde. XI und XII der Reihe „Quellen und Forschungen zur Historischen Statistik Deutschlands“ (Geld- und Wechselkurse in Deutschland und im Ostseeraum im 18. und 19. Jahrhundert), St. Katharinen 1990, 1993 und demnächst Mitherausgeber der „Hamburger Handelsstatistik im 18. Jahrhundert“, 2 Bde. (=Quellen und Forschungen zur Historischen Statistik Deutschlands, Bde. IX und X).

また『世界の通貨』シリーズは、『経済社会史論文集』に  
収められ、以下の構成となっている。

## Beiträge zur Wirtschafts- und Sozialgeschichte Herausgegeben von Rainer Gömmel und Jürgen Schneider Steiner Verlag Stuttgart

Beiträge Band-Nr.	Titel	Herausgeber	Jahr	Seiten	ISBN	Preise (DM)
44	Währungen der Welt I: Europäische und nordamerikanische Devisenkurse 1777-1914, in 3 Teilbänden	Jürgen Schneider, Oskar Schwarzer, Friedrich Zellfelder	1991	1473	3-515-05982-2	288,-
45	Währungen der Welt II: Europäische und nordamerikanische Devisenkurse 1914-1951, in 2 Teilbänden	Jürgen Schneider, Oskar Schwarzer, Markus A. Denzel	1995	app. 800	3-515-05983-0	ca. 280,-
46	Währungen der Welt III: Europäische Wechselkurse im 17. Jahrhundert	Jürgen Schneider, Oskar Schwarzer, Markus A. Denzel	1993	333	3-515-06062-6	114,-
47	Währungen der Welt IV: Asiatische und australische Devisenkurse im 19. Jahrhundert	Jürgen Schneider, Oskar Schwarzer, Friedrich Zellfelder, Markus A. Denzel	1992	400	3-515-06063-4	128,-
48	Währungen der Welt V: Asiatische und australische Devisenkurse im 20. Jahrhundert	Jürgen Schneider, Oskar Schwarzer, Markus A. Denzel	1994	281	3-515-06064-2	94,-
49	Währungen der Welt VI: Geld und Währungen in Europa im 18. Jahrhundert	Jürgen Schneider, Oskar Schwarzer, Friedrich Zellfelder, Markus A. Denzel	1992	322	3-515-06072-3	114,-
50	Währungen der Welt VII: Lateinamerikanische Devisenkurse im 19. und 20. Jahrhundert	Jürgen Schneider, Oskar Schwarzer, Markus A. Denzel	1995	app. 400	3-515-06328-5	ca. 128,-
57	Währungen der Welt VIII: Afrikanische und levantische Devisenkurse im 19. und 20. Jahrhundert	Jürgen Schneider, Oskar Schwarzer, Markus A. Denzel	1994	177	3-515-06496-6	68,-
59	Währungen der Welt IX: Europäische Wechselkurse vor 1620	Markus A. Denzel	1994	app. 250	3-515-06576-8	ca. 86,-
61	Währungen der Welt X: Geld- und Wechselkurse der deutschen Messeplätze Leipzig und Braunschweig (18. Jahrhundert - 1822)	Markus A. Denzel	1994	120	3-515-06575-x	48,-
N.N.	Währungen der Welt XI: Exchange rates of New York, London, Tokyo and Frankfurt am Main 1952-1979	Oskar Schwarzer	1995	app. 400		ca. 128,-

なお、原著に掲載されている一七〇〇年のアムステルダム  
の為替相場に関する資料のハンドシュリフトに判読できない  
簡書があったため、この資料とそれに関わる本文は翻訳から  
除かれている。

(やまだ てつお・西洋経済史)

WÄHRUNGEN DER WELT IV  
ASIATISCHE UND  
AUSTRALISCHE  
DEVISENKURSE IM  
19. JAHRHUNDERT

BEITRÄGE ZUR  
WIRTSCHAFTS- UND  
SOZIALGESCHICHTE  
STEINER



原著の表紙